

## 4 英語教育の充実

①施策の展開	小中一貫教育の推進	課名	教育指導課
②取組概要	英語教育支援人材・外国人英語講師の配置、英検の受検料補助等により、英語力の向上に努めるとともに、児童生徒の国際理解を深め、コミュニケーション力の育成を図る。		
③構成取組	(1) 英検受検料補助事業 (2) 英語教育支援人材派遣事業 (3) 外国人英語講師業務委託事業		

④取組計画	<p>(1) 小学6年生の<u>児童英検</u><sup>(7)</sup>受検を全額補助する。中学校英検受検については、3年間在籍中1人につき2回の補助のうち、1回は4級受検料を全額補助し、中学2年生全員が受検する。</p> <p>(2) 英語教育支援人材の募集を行い、小学校に7人配置する。各学校において、担任が一人で授業ができるよう指導支援を行うため、毎月、英語教育支援人材研修会を開催し、教材の交流、指導法研修などを行う。また、府事業「<u>使える英語プロジェクト事業</u><sup>(8)</sup>」実施小学校4校においては、有効な活用方法等の研究を進める。</p> <p>(3) 選定委員会により2社を選定し、2中学校区（中学校2校・小学校4校）に1人の外国人英語講師（NET）を7人配置する。また、府事業「使える英語プロジェクト事業」実施中学校区には、1中学校区（中学校1校、小学校2校）に1人配置し、有効な活用方法等の研究を進める。</p>
-------	--

⑤取組実績

(1) 児童英検・英検受検により、児童生徒自らが英語力を確かめ自信に繋げられるよう、各校とも受検の啓発に努めた。小学校では、全小学校で児童英検を受検するとともに、中学校においては、英検4級を合格することが3級受検へのモチベーションに繋がることから、まず、中学校2年生での4級受検を推奨する学校が多かった。また、府事業「使える英語プロジェクト事業」実施校では、1年生が5級程度、2年生が4級程度、3年生が3級程度の英語力をつけることが成果指標になっており、第六中学校、中木田中学校の生徒の各学年が受検した。

<受検率の推移>

級別	平成22年度		平成23年度		平成24年度	
	受検者数	在籍数	受検者数	在籍数	受検者数	在籍数
2級・準2級	3.0%		1.8%		3.6%	
	61人	2,001人	39人	2,133人	74人	2,072人
3級	24.9%		29.0%		35.1%	
	499人	2,001人	618人	2,133人	727人	2,072人
4級	43.8%		87.7%		75.1%	
	936人	2,135人	1827人	2,083人	1574人	2,097人
5級	35.7%		43.8%		48.5%	
	745人	2,086人	917人	2,095人	1032人	2,126人

2級・準2級受検率…2級・準2級受検者数／3年在籍数  
 3級受検率……………3級受検者数／3年在籍数  
 4級受検率……………4級受検者数／2年在籍数  
 5級受検率……………5級受検者数／1年在籍数

【児童英検について】 ブロンズ・シルバー・ゴールド受検

		平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
ブ ロ ン ズ	本市 6 年生 (平均点) 受検者数 1,948 人	86.3 点	86.1 点	85.1 点
	児童英検全体 (平均点)	81.4 点	81.4 点	81.4 点
シ ル バ ー	本市 6 年生 (平均点) 受検者数 83 人	85.7 点	86.4 点	84.7 点
	児童英検全体 (平均点)	83.6 点	83.6 点	83.6 点
ゴ ー ル ド	本市 6 年生 (平均点) 受検者数 86 人	73.8 点	79.7 点	82.5 点
	児童英検全体 (平均点)	74.5 点	74.5 点	74.5 点

(2) (3) 英語教育支援人材を減員したが、各校においては、児童のコミュニケーション力を育成するため、担任が自立して授業ができるようサポートするなど支援に努めた。また、4つの小学校間をつなぐ調整役としても活躍し、指導案の作成や教材の開発、行事の計画など、国際理解に繋がる体験的なコミュニケーション活動を実施した。

外国人英語講師 (NET) についても、まとめの学習において、効果的に活用するなど、児童生徒の国際理解とともに、コミュニケーションを楽しむことや、意欲の向上に繋がった。

各中学校区では、ホップ・ステップ・イングリッシュ交流会を開催し、平素の国際コミュニケーション科・英語科授業で培った力を活用しながら、学園の児童・生徒が英語による交流を実施した。また、府事業「使える英語プロジェクト事業」実施の二中学校区では、公開授業を実施した。

⑥評価

(1) 英検受検については、4級全額補助による4級受検率の倍増から、3級受検にもつながり、3級以上の受検率が7.9ポイント増加したことは評価できる。しかし、全体の3級以上受

検率の割合は38.7%と、目標値である70%には至っておらず、受検率の向上が課題である。今後も計画的な受検への取り組みとともに、相手の意向を理解し、自分の考えを英語を使って表現できる力の育成をめざし、各学年でのさらなる授業改善を行っていく必要がある。

(2)(3) 減員したものの、英語教育支援人材や外国人英語講師(NET)の配置等により、アンケートにおいても、外国の暮らしや文化等について、7割以上の児童生徒が興味関心を示しており、国際理解についての意欲・関心の向上につながっている。また、小学校担任による国際コミュニケーション科の授業については、英語教育支援人材やNETに頼らず、不安なく実施することができるなど、小学校間・小学校中学校間の連携や交流も図る中で、その指導力の向上が見られた。また、中学校では、ホップ・ステップイングリッシュ交流会やイングリッシュプレゼンテーションコンテストの発表等、子どもたちのコミュニケーション力向上に結びつく取り組みや授業改善を、さらに進めていくことが必要である。